

仁川国際空港 第2ターミナル来年1月18日開港



地下2階、地上5階からなる第2旅客ターミナルは、波打つ格子の天井が特徴。「グリーン・エアポート」「エコ・エアポート」をコンセプトとし、空港内部に樹木など緑や空港の屋根全体にソーラーパネルを配置する



天井やガラス窓から光が差し込む



出国審査後のショッピングエリア(イメージ)

第2仁川国際空港ターミナル

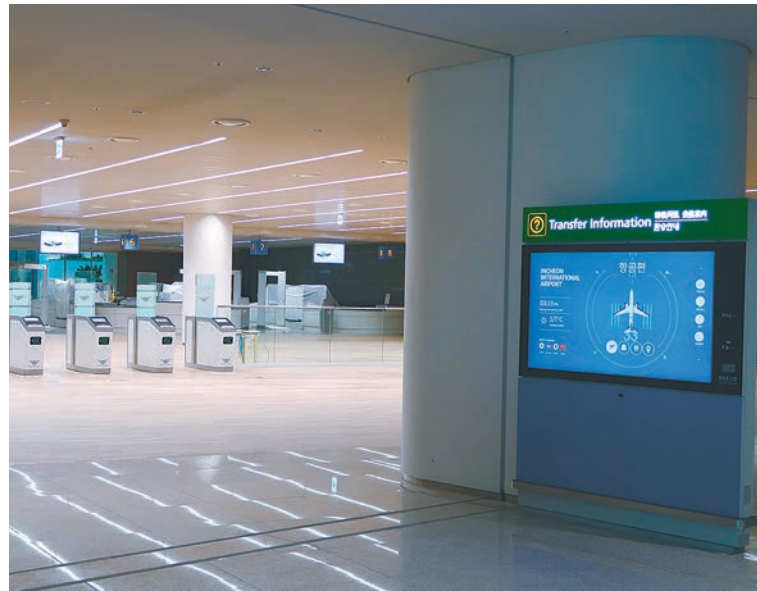
仁川国際空港(韓国)の第3段階事業として、平昌五輪が開港する直前の2018年1月18日、第2ターミナルがオープンする。大韓航空をはじめ、スカイチームが主に使用。年間旅客処理能力は540万人から720万人に増加する。今後、第4段階事業18~23年では滑走路を増設し、世界初の年間旅客数1億人を目指す。施設は、チェックインやゲートを最新機器による自動化で時間短縮を行うほか、韓各地から名産を集めた「韓国美食館」、有料ラウンジ、乗り継ぎホテル、休憩用ヘッドフォン、キッズエリア、ライブラリー、ジムなどを備え、利便性を向上する。

仁川空港公社(韓国)はこのほど、大韓航空と共催し2018年1月18日にオープンする仁川国際空港第2ターミナルと統合型リゾート(IR)「パラダイスシティ」の視察旅行を実施。日本全国の旅行会社から約100人が参加した。視察の主な活動を写真で紹介する。

世界初の年間利用客1億人空港へ



空港内のイスの端に充電スポットが。USBポートやコンセントがある



乗り換え用の検査所を設置。乗り換えは全て緑で表示する



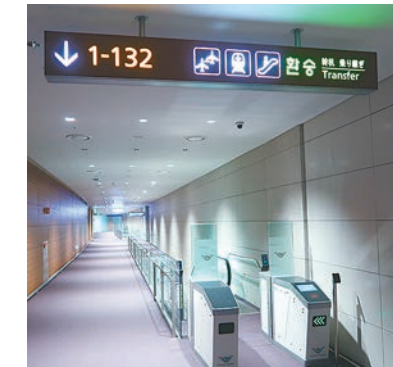
軽量化され移動しやすいカート



バリアフリーに対応するトイレも設置



地下1階から空港鉄道、バスなどに乗り換えができる



空港間を乗り継ぎするスターライン乗り場にも検査所を設置



空港の随所に、日本語対応のデジタルサイネージを設置



セルフチェックイン、セルフバックドロップなどの最新機器を配し手続き時間を最小化



平昌五輪直前の2018年1月18日にオープンする仁川国際空港第2ターミナル(イメージ)



約2千収容するコンベンションホール

生演奏を楽して聴けるライブシ

ホテルは111室の部屋を備える



WATG 総面積約33万平方メートル、総工費約1300億円。北東アジア初のIR「パラダイスシティ」。仁川国際空港からシャトルバスで約5分。今後、商業施設などが随時完成する

パラダイスシティ

仁川国際空港が所有する敷地に建設された、北東アジア初のIRとしてパラダイスシティ(韓国・仁川)が4月に開業した。日本のエンターテインメント企業「セガサミーホールディングス」が韓国で23年の運営50年の歴史を持つ「パラダイスシティ」に共同出資して開発。五つ星ホテル「パラダイスホテル&リゾート」と外国人向けカジノ「パラダイスカジノ」(コンベンション)を備える。館内には、約700点の芸術品や「パール、スバ、ボリック」キッズなどがある。



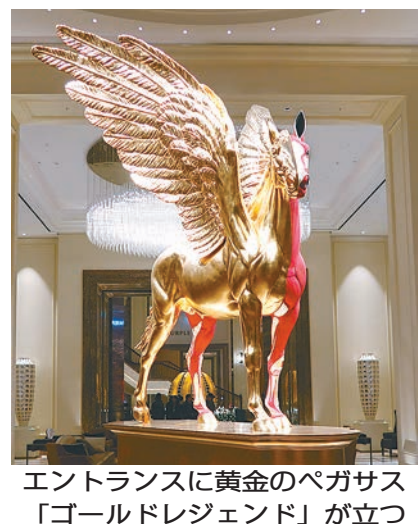
日本企業が入り、日本語対応されたカジノ



館内には和洋中のレストランやカフェが入る



吹き抜けの中央部分に草間彌生氏の「パンプキン」が鎮座



エントランスに黄金のペガサス「ゴールドレジェンド」が立つ